

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	6
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	11
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	12

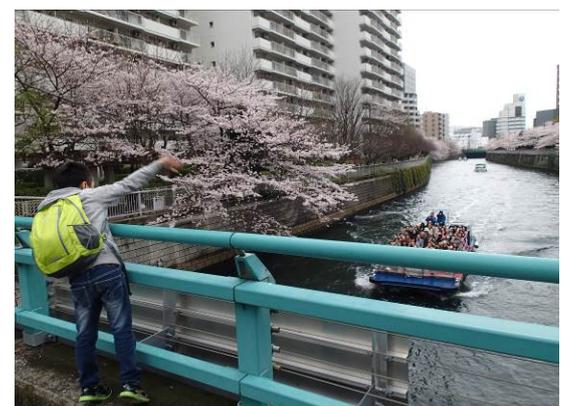
JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2016」作品集を発行しました。

JRRN では、水辺が創出する美しい景観の未来への継承を目的として、『桜のある水辺風景 2016』の募集を行ってまいりました。

2010 年から始まったこの企画も、今年で 7 回目を迎え、皆様からのたくさんのご応募を頂きました。誠にありがとうございました。

この度、ご応募頂いた写真を『桜のある水辺風景 2016』応募写真集』としてとりまとめホームページ上で公開しましたので、是非ご覧ください。



(JRRN 事務局・阿部充)

◆公開先ホームページ URL :

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

(※過去 6 回の写真集も公開しております。)

また、今年から Facebook での投稿も始めましたが、Facebook では、メールでの投稿も全て閲覧可能ですので、あわせてご覧ください。

◆URL : <https://www.facebook.com/sakuramizube/>

来年も本企画を予定しております。今年は応募を見送った皆様も、来年は是非ご参加ください。また、本企画について、お気づきの点があれば事務局までメールをお願いします。今後の参考とさせていただきます。

『香港政府視察団と国内行政機関との洪水・高潮対策に関わる技術交流』支援報告

2016年5月23日(月)～25日(水)の三日間、香港政府視察団が来日し、首都圏の洪水・高潮対策事業を担う行政機関との技術交流が行われました。本交流行事をJRRNが支援しましたので、その概要をご報告させていただきます。

【1】視察団受入の経緯と視察行程

香港政府視察団へのJRRNによる支援は、これまで2009年2月(都市部の水辺再生事業調査)及び2013年2月(治水と両立した都市の水辺再生や地域活性化の事例調査)に実施し、今回が3回目となります。

- 2013年2月の視察報告：
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/213>
- 2009年2月の視察報告：
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/49>

本年1月に香港政府より5月視察希望の連絡を受け、視察の目的や技術的な関心事項、また旅程案等を確認し、それらを踏まえた国内受入機関との調整を経て、今回の現場視察及び技術交流が行われました。

表－香港政府視察団の行程

月日	視察先 (技術交流受入機関)
5/23 (月)	午前：首都圏外郭放水路 (国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所) 午後：三郷排水機場 (同上・三郷出張所)
5/24 (火)	午前：水門管理センター (東京都建設局河川部計画課、江東治水事務所) 亀島川水門(同上) 午後：月島川水門／浜離宮(JRRN) 高潮対策センター (東京都港湾局港湾整備部計画課、高潮対策センター) 辰巳排水機場・辰巳水門(同上)
5/25 (水)	午前：荒川知水資料館／岩淵水門 (国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所) 江戸川区親水河川公園(JRRN)

【2】視察団の構成と視察目的

本視察団は、香港政府職員(香港特別行政区政府・渠務署排水局)3名及び民間コンサルタント1名の計4名で構成され、渠務署排水局(Drainage Services Department)は、香港の河川及び都市排水路の洪水対策、水質改善、下水道等の業務を分掌する組織です。

- 香港渠務署排水局のホームページ：
<http://www.dsd.gov.hk/EN/Home/>

香港北部に位置するユエン・ロング地区では、今後の気候変動(IPCC第5次評価報告書での予測結果)に対応した大規模な洪水防御事業を計画しており、この事業では、既にある放水路の機能の拡大とともに、大規模な高潮水門や排水機場の整備を検討中です。

そこで、日本の先進事例視察と現場を管理する行政機関との意見交換を通じて、高潮水門や排水機場の施設計画や建設時の留意点、維持・管理上の経験や教訓、更には治水を主目的としながらも自然環境に配慮した事業の進め方などを学ぶことを目的に来日しました。

【3】各技術交流の概要報告

(1) 首都圏外郭放水路における技術交流(5/23・午前)

5月23日(月)午前は、国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所が管理する首都圏外郭放水路を視察しました。

はじめに、首都圏外郭放水路の管理棟屋上より、江戸川で実施されている堤防整備に併せ環境に配慮した河道掘削の概要をご紹介頂いた後、龍Q館にて流域の概要と江戸川河川事務所の業務概要、また首都圏外郭放水路の機能やメカニズムについて説明を受けました。



自然環境に配慮した河道掘削現場の説明



メカニズムの説明及び調圧水槽内での記念撮影



管理室及び排水機の紹介

続いて、パルテノン神殿とも呼ばれる地下 22mの調圧水槽を案内頂き、その役割や維持管理などについて視察団との意見交換を行いました。

(2) 三郷排水機場における技術交流 (5/23・午後)

5月23日(月) 午後は、国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所三郷出張所が管理する三郷排水機場を視察しました。

三郷放水路及び三郷排水機場の役割の説明に続いて、管理室では施設制御方法の紹介、また排水機(ポンプ)の実物を見学しながら、運転操作における留意点や維持管理について詳しく説明頂きました。

(3) 水門管理センター及び亀島川水門における技術交流 (5/24・午前)

5月24日(火) 午前は、東京都建設局江東治水事務所が管理する水門管理センターを視察しました。

水門管理センターの紹介に続いて、東京都が取組む低平地における河川事業の概要をスライドやビデオを用いてご説明頂き、香港視察団と東京都建設局職員との意見交換を行いました。

その後、管理室を案内頂き、本センターで管理する施設の概要やその操作方法などについて担当者より詳しく説明頂きました。



三郷排水機場の役割紹介



水門管理センターの概要紹介



水門管理センターの管理室



高潮対策センターでの説明



亀島川水門にて終了後に記念撮影



高潮対策センターでの説明



排水機（ポンプ）の紹介

続いて、同じく東京都建設局江東治水事務所が管理する亀島川水門へと移動し、水門の役割や操作方法、維持管理などについて説明を受けました。

(4) 高潮対策センター及び辰巳排水機場・辰巳水門における技術交流（5/24・午後）

5月24日（火）午後は、東京都港湾局東京港建設事務所が管理する高潮対策センターを視察しました。

東京港の高潮・津波対策の概要説明の後、管理センターの役割、また水門や陸閘などの関連施設や操作機器の概要についてご紹介頂きました。

続いて、辰巳排水機場へと移動し、前回の東京オリンピックが開催された50年以上前から丁寧に維持管理して運用する4台のポンプを囲みながら、東京都港湾局の担当者と香港視察団による運転時や維持管理に関わる様々な意見交換が行われました。

最後に、昭和37年に建設された辰巳水門を視察し、現在実施中の門扉の交換工事を見学しながら、特に水門の維持管理について技術交流を深めました。

(5) 荒川知水資料館及び岩淵水門における技術交流（5/25・午前）

5月25日（水）午前には、国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所が管理する荒川知水資料館及び岩淵水門を視察しました。

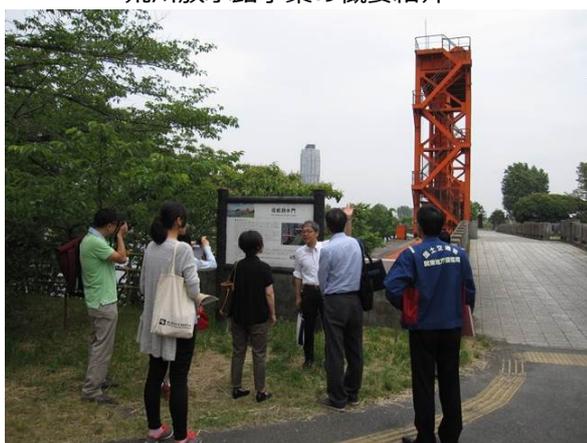
はじめに、荒川知水資料館において、荒川流域の概要や荒川放水路の概要を紹介頂き、首都・東京を洪水から守る上での岩淵水門の大切さについて、洪水被害の歴史や最新のシミュレーション結果などを通じて説明を受けました。



荒川放水路事業の概要紹介



一之江境川親水公園の紹介



旧・岩淵水門の紹介



水門操作室の説明

続いて、荒川放水路建設当初に設置された旧・岩淵水門を視察し、その後は現在活躍する岩淵水門を案内頂き、その役割や操作方法、更には水門施設の維持管理などをテーマに、視察団と担当者での様々な意見交換を行いました。

(6) 江戸川区親水河川における技術交流 (5/25・午前)

岩淵水門の視察を終えた後は、荒川下流部へと移動し、江戸川区に約20年前に整備された親水河川公園などを視察し、環境に配慮した川づくりについて視察団との議論を深めました。

【4】おわりに

これまでJRRNでは約30の海外視察団の支援を担ってきましたが、香港政府視察団の意見交換の場での質問の数は群を抜き、視察に際しての真摯な姿勢は毎回大きな刺激を受けます。

また、それに応える日本の受入機関担当者の方々の謙虚かつ真剣な姿勢からは、日々の仕事に対する誇りとともに、これまで培ってきた経験と教訓を是非とも他国で活かして欲しいという熱意が伝わり、国を跨いだ技術者魂の交流から、改めて日本の川づくりの奥深さを学ぶことができました。

全ての視察を終えた香港視察団の団長からは、「今回、私達は100年以上に及ぶ日本の素晴らしい経験を学ぶ機会を得ることができました。この視察で学んだ知見を、これから香港で取組む洪水・高潮対策に活かしていきます。」との感謝のお言葉を頂戴しました。

JRRNでは、日本がこれまで培ってきた川づくりの経験・技術等を海外に伝え国際貢献することを目的に、今後もこうした海外と国内関係機関との橋渡しを担いながら、技術交流の成果を日本国内の皆様にも紹介できるよう努めて参ります。

最後に、本視察の受け入れに際し、準備段階から当日の対応まで全面的にご協力頂きました、国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所、東京都建設局河川部計画課及び水門管理センター、東京都港湾局港湾整備部計画課及び高潮対策センター、国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所の関係者各位に厚く御礼申し上げます。

【JRRN ニュースレター7月号 予告】

来月号では、本視察の背景となりました、香港における気候変動に適応するための洪水・高潮対策プロジェクトの概要をご紹介します。

(JRRN 事務局・和田彰)

小学生の視点を取り入れたダム教材の開発 ～沖縄・羽地ダムにおける官学連携による取り組み～

寄稿者：吉富友恭（東京学芸大学吉富研究室・JRRN 団体会員）

観光・教育資源としてのダム

私たちの暮らしや経済、安全を支える基盤となる道路、橋梁、ダム、地下放水路、港湾等のインフラ（infrastructure）が観光資源、教育資源として改めて注目されています。インフラは管理上、関係者以外は入ることができない場所もありますが、施設の一部を開放し、一般の人々が間近に見学できる機会を設ける施設、また、資料館や展示スペースを併設する施設も多くみられます。

近年、インフラを地域の観光資源として捉え、それらを巡る「インフラツーリズム（Infra-Tourism）」が注目されています。一方、従前より多くの当該施設は学校見学の対象ともなっており、社会見学や総合的な学習の時間等、小学校を中心に校外学習の機会に多くの学校団体が訪れます。

インフラの施設の役割は様々で、施設のスケールが大きく、その構造も複雑で捉えにくい部分が多いため、それらを来場者にわかりやすく伝えることは容易ではありません。そのため、多くのダムでは資料館や展示スペースに、ダムの解説パネルや構造模型、施設の紹介映像等を常設しています。また、解説用のパンフレットも置かれています。しかし、展示の見学やパンフレットの閲覧だけでダムの仕組みや機能、施設を維持管理する技術、その解説に使われる専門用語を理解することは難しく、来場者、特に学校関係者からわかりやすい解説を求める声があがっていました。

羽地ダム教材づくりのきっかけ

羽地ダムは、沖縄本島河川総合開発事業の一環として、洪水調節、流水の正常な機能の維持、灌漑用水及び水道水の供給を目的に、羽地大川（流域面積14.8km²、流路延長12.6km）の河口から約3.1km上流地点に建設された高さ66.5mのロックフィルダムです。

内閣府沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所羽地ダム管理支所は、ダム施設の仕組みや役割を伝え、社会資本整備への理解を促すことを目的として資料館を併設しています。しかし、現場では活用されていない展示や改善が必要な展示が多いといった指摘もあり、それらの展示を有効に活用するためにはどのようにしたら良いか、筆者の研究室が相談を受けました。そこ

で、ダム施設および資料館の展示への気づきを促す方法の一つとして、来場者の多くを占める小学校を対象とした教材を開発することとなり、その企画を担当しました。

完成した教材「The ダム～羽地ダム編～」は全22ページで、「羽地ダムの全体図」「ダムって何だろう？」「沖縄のダム」「羽地ダム Q&A」「ダムのお仕事」「おいしい水を守るために」「羽地ダムの新しい技術の紹介」「羽地ダム資料集（学校での壁新聞づくりに役立つ切り抜きページ）」で構成されています。各コーナーではダムの学習ポイントを読み手に呼びかけるダム・キャラクターも登場します。デザインは鶴川女子短期大学講師の本間由佳さんが担当しました。

壁新聞から小学生の視点を分析

この教材の開発過程では、展示への気づきを促す視点を探るため、現地に見学を訪れる小学生の視点に着目しました。過去数年間に校外学習で羽地ダムを訪れた小学生が作成した壁新聞や感想文に目を通し、小学生のダムの見方や興味の対象を分析しました。一方、ダム管理支所職員は資料館で伝えたい内容を改めて考えることで、教材に盛り込みたい項目を整理しました。

多くの小学生が壁新聞の記事や感想文にとりあげていた内容として「生活で使う水のこと」「ダムの構造」「ダムに貯められる水の量」「ダムをつくる工事や重機のこと」「ダムにかかわる技術者の仕事」他のダムとの比較（大きさの順位等）「生き物への配慮」「水を送る仕組み」「ダムのつながり」等があげられました。

以上の内容を盛り込み、わかりやすく解説するための写真や図解を用意することにしました。具体的には、既存の展示や資料の図を改良、イラストの新たな書き起こし、写真の撮り直し、古写真の選定と掲載、図解の見直しと調整等を施し、随所にわかりやすい表現を取り入れました。さらに、上記いくつかの事柄については、小学生はパンフレット等の図を切り貼りして使用していることが多かったため、ダムの外観、断面形状を単純化した基本パーツ、授業で題材となることの多い事柄の写真等を一部のページに掲載することにしました。一方、全体の構成については事務所職員で伝えたい内容を検討し、既存の展示を活かし関連づけられる情報、展示にはなく新たに用意すべき情報を整理

しながら構成が決まってきました。

これらの作業を経て、小学生の興味、職員が伝えたいポイントを抽出・整理することができ、専門的な内容を噛み砕いた一般向けの文章表現、捉えにくい自然の事象や施設の構造のイラストによる視覚化、伝えたいイメージに適した写真、小学生が興味をもっているが扱われていなかった題材等、多くが取り入れられた新しい教材が完成しました。

わが国には100を超える河川やダム資料館・博物館があります。今後、河川教育や防災教育を推進していく上で、当該施設の展示や教材の活用が期待されています。本稿でとりあげたような取り組みを一つの例として、様々な施設において現場に即した解説方法が再考され、わかりやすく魅力的な展示や教材が作られ広がることを期待しています。

本教材の開発にあたり、内閣府沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所羽地ダム管理支所の町田宗久支所長（当時）をはじめ関係者の皆様には、情報収集や表現の検討にご尽力頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 国土交通省総合政策局 (2015) インフラツーリズム-暮らしや安全を支えるインフラ。見て、触れて、そして学び- http://www.qsr.mlit.go.jp/s_top/genkiup/ture.pdf
- 2) 内閣府沖縄総合事務局 (2016) 小学生向けダム学習教材を作成(羽地ダム) -これまでになかった新しいダム教材 http://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/kisya/160426_1_kisya.pdf



沖縄のダム



羽地ダムQ&A



ダムのお仕事【日々の仕事編】



Theダム【羽地ダム編】



羽地ダムの新しい技術の紹介・羽地ダム資料集

6月



白鳥の飛来地・十勝川

(うるおい十勝川十勝温泉より)



標津川

(釧路河川事務所より)

あの日のあの川 リレー日記 ～第17話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第17話主人公 肥田野美琴

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：北海道十勝川)

「記憶に交じる水」

いつのこと？：幼少期から高校生まであらゆる過去

どこの川？：十勝川、標津川、釧路川

「おや」と私は思った。それからまもなく「これはまずいんじゃないか」とも。

四月も終わる、ある日の真夜中。このリレー日記「あの日のあの川」を書く段になって初めて私は気づいてしまった。「あの日のあの川」に書かれるべき思い出は「幼少期や青春時代」のものが奨励されているにもかかわらず、私には過去の記憶があまりないということに。もちろん何か大きな事故にあったというわけではなく、記憶力に乏しいだけである。「ぼんやりと日々過ごしていたツゲが回ってきたか」と今更後悔しても後の祭り。先輩方に「任せてください」と見得を切った手前「いや、実はあまり思い出せなくて」なぞ言えぬ。幸いなことに書式は自由とうかがっているのだし、つたないながら文字で記憶をたどっていこうと思う。

私は北海道の帯広市に生まれ、およそ九歳までこの町に住んでいた。生まれ故郷でありながら思い出が一番少ないのは小学三年生で転校することになったからだろう。

帯広市とは「十勝振興局」の中心地である。この地域で一番有名な川は「十勝川」だ。しかし私はこの川について一般的な話しか知らない。この十勝川で開催される「勝毎花火大会(十勝毎日新聞が主催)」がなかなか大きい花火大会であり、私は幼いころに行ったらしい。親がそう言っていたのだからそうなのだろう。覚えていないことに目を向ければ、十勝川に架かる十勝大橋という音更町に行く途中にある立派な橋を車で通るたびにわくわくしていたことだけなのだ。音更町にはマクドナルドとトイザラスがあって、そこに連れていってもらえるのが幼い私の楽しみだった。それから家のどこかで見た写真の一つに、またまた立派な橋を背景に白

鳥と家族が写っていた写真があったと思う。調べてみると十勝中央大橋の河畔に白鳥が飛来してくるそうだ。おそらくそれだろうと思うが、もちろん小さなときなので記憶がない。

そんな私の記憶に深く根ざしている川は名も知らぬ小さな川である。いや、川と言えるほど大きくもない。水が流れていたと言ったほうが正しいか。

その水は小学校への通学路の暗い森（「若葉の森」と呼ばれていた）のさほど長くない小道に沿って流れていた。音はなかったように思う。小道は短かったが暗い森だった。見上げて空が見えたかどうか。詳しく描写しようにも私は川の始まりも知らず、終わりもわからない。途中でカーブし森を抜ける小道と違って、きっと森の奥に続いていったのだろうと思う。「サンショウウオがいるからきれいに云々」といった看板が立っていたのを覚えている。その森ではエゾリスも時々見ることができた。小学校高学年、そして中学生の背中を見上げながら後をトコトコついて行って森を抜けると小学校と中学校が向かい合わせに建っていた。そのために付近の小中学生はこの小さな森の土の道を通学路としていた。森の入り口は坂の途中にあって、ただカーブミラーと車が入れないようにアーチ形のガードポールが置いてあった。朝、大人たちが坂を車で上り下りしながら鬱蒼とした森に子供たちが吸い込まれていく様を見ていたかと思うとなんだかおもしろい。

帯広市から引っ越した先はこれまた道東の標津町である。私はこの町の小・中学校を卒業した。つまりおよそ六年住んでいたといえる。この町はオホーツク海に面しており、朝はカモメの声で起こされた。

もちろん川もある。その名の通り標津川である。サケが遡上することで有名で、町にはサーモンパークまである。家の近くだったためにたびたび行ったが、思い出せる魚はイトウ、ニジマス……くらいか。この施設、秋になるとサケの産卵が見ることができる。勇ましい様子であったのは覚えている。また、町の祭り「水・キラリ」の日にはサーモンパークが一際にぎやかになる。町を支える「水」に感謝するために町が伝説を創作して、それをもとに祭りが行われる。

それから標津町にはポー川というのもあった。「ポー川史跡自然公園」というすごい場所があって授業で行ったことがあるがあまりよく覚えていない。結局たいそう素晴らしい資源があっても、関心がないと子供は記憶できないのだろうか。それとも私が不真面目だったから、または私がよそ者だからだろうか。

中学卒業後、私は釧路市の高校に進学した。高校三年間を釧路で過ごした。釧路市は標津町から車で二時間と少しという距離だが少なくとも私の周囲ではさほど珍しい選択肢ではなく、ありがたいことに釧路市には下宿を営む家がほどほどにあった。私は三年間高校の近くにあった下宿と高校の往復をした。下宿と高校は釧路市が誇る「釧路川」と「新釧路川」に挟まれた土地にあった。どちらにも近かった。しかし、どちらが思い出深いかと言われれば新釧路川のほうかもしれない。高校の前に比較的大きな道路があり、途中にある下宿によらずにひたすらまっすぐ北に歩いていくと、鶴見橋という新釧路川を架ける橋がある。欄干のはじまりである親柱が立派なもので、銀色の鶴たちがまさに飛び立とうとしているのだ。この橋の向こうに友人が住んでいたものだから、帰り道に離れがたくてよくこの橋を渡ったものだ。橋の上で寒い寒いと言いながら、ひたすら橋の上から川を見ていた。

一回だけ、川の近くに行ったことがある。高校三年生の冬だった。当時好きだった男の子が「お気に入りの場所」だと言って連れて行ってくれたのだ。何か特別なものがあるわけではないけれど、そこには川があり目の端には海が広がっていて、晴れた日の夕暮にその空間は橙に染まる。深呼吸をすると落ち着けた。きっと地元でも知っている人はさほどいないだろう。道ならぬ道を行った先にあった。もう私にはたどり着けない場所である。

さて、まことに心苦しいが私の「幼少期や青春時代」の川の思い出はこれにて以上となる。見返してみてもわかりにくい思い出ばかりで本当に申し訳なく思う。大学で川の勉強をして初めて自分がとても自然豊かな、美しい川のある街を転々としてきたことに気づいたのだ。おそらく私の川の思い出はこれから作られるのだろう。

(次は斉藤優生さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.85

岡村幸二 (JRRN 会員)

崖線の緑をつなぐ：

二子玉川の有する自然資産と都心アクセス性の良さの両立



撮影：2016年5月（東京都世田谷区・二子玉川ライズ）

◆「二子玉川ライズ」と呼ばれるまち

このまちは、昭和57年（1982）から33年かけて市街地再開発事業により生まれました。計画のコンセプトは宇沢弘文の「社会的共通資本」がベースとなったそうです。自然と共生しながら地域の生態系を維持することで、未来に向けて地域の共有資産をつくることを目指しています。

◆自然の緑と都市の緑の二重奏

国分寺崖線の緑と多摩川の河川空間をつないで地勢と水脈の自然エネルギーを取り込み、低層棟上部には6000㎡のルーフガーデンを設置し、生物多様性の楽園をつくりあげています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2016年5月末まで提供分) Information from member

[JRRN 会員からの提供情報]

■ 第11回隅田川クリーン大作戦 (6/18 開催)

隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会からのご案内です。



- 日時：2016年6月18日(土)
9:00~12:00
- 場所：隅田川テラス
(桜橋から勝鬨橋までの約8km)
- 参加費：無料
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2421.html>

[JRRN 会員からの提供情報]

■ 魅力ある水辺空間の再生シンポ (6/22 開催)

国立研究開発法人土木研究所より「魅力ある水辺空間の再生に関するシンポジウム」のご案内です。



- 日時：2016年6月22日(水)
13:00~17:00
- 場所：星陵会館ホール
(東京都千代田区)
- 参加費：無料
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2425.html>

[JRRN 会員からの提供情報]

■ 第30回記念筑後川フェスティバル(6/11-12 開催)

古賀河川図書館より、筑後川フェスティバルとイベント「筑後川コンセンサス会議特別講演会」のご案内です。



- 日時：2016年6月10日(金)~12日(日)
- 場所：久留米大学御井キャンパス、筑後川昇開橋展望公園付近
- 参加費：無料
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2430.html>

[JRRN 会員からの提供情報]

■ フィールドシンポジウム in 櫛田川 (7/25 開催)

応用生態工学会名古屋より、三重県で開催されるフィールドシンポジウムのご案内です。本行事には、応用生態工学会会員のみならず、一般の方々(非会員)も参加することができます。



- 日時：2016年7月25日(日)
- 場所：櫛田川(三重県)、津商工会議所(三重県津市)
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2436.html>

[海外からの提供情報]

■ 「RRC (英国河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2016年5月号) が RRC 事務局より届きました。

本号では、2016年の英国河川賞の受賞河川 (Eden 川、Derwent 川、Kent 川) 紹介、4月下旬に開催された第17回 RRC 年次講演会の成果公開、また河川再生に関わる行事等が紹介されています。

RRC 講演会の発表スライドやポスター、概要集から、英国の河川再生の最新トピックをご覧ください。

- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2433.html>



会議・イベント案内 (2016年5月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■ 2016年度河川技術に関するシンポジウム

- 日時：2016年6月2日(木)～3日(金)
- 主催：公益財団法人 土木学会
- 場所：東京大学農学部 弥生講堂(東京都文京区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2291.html>

■ 日本の国土横断軸を支える利根川・信濃川・阿賀野川

- 日時：2016年6月4日(土) 15:00～
- 主催：東京経済大学 他
- 場所：東京経済大学 国分寺キャンパス(東京都国分寺市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2374.html>

■ 第32回岐阜シンポジウム「人のくらしと流域」

- 日時：2016年6月18日(土) 13:20～16:00
- 主催：岐阜大学・流域圏科学研究センター
- 場所：じゅうろくプラザ 大会議室(岐阜県岐阜市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2383.html>

■ 応用生態工学会 第20回全国大会

- 日時：2016年9月2日(金)～4日(日)
- 主催：応用生態工学会
- 場所：東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2368.html>

■ 第16回川に学ぶ体験活動全国大会 in 琵琶湖・淀川流域圏

- 日時：2016年9月3日(土)～4日(日)
- 主催：第16回川に学ぶ体験活動全国大会実行委員会
- 場所：摂南大学 寝屋川キャンパス(大阪府寝屋川市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2351.html>

■ 第9回いい川・いい川づくりワークショップ

- 日時：2016年9月10日(土)～11日(日)
- 主催：いい川・いい川づくり実行委員会
- 場所：高梁市文化交流館(岡山県高梁市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2370.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2016.6.5-9(京都)International Conference on Water Resources and Environment Research
- 2016.6.28-7.1(リヨン/フランス) 9th International Conference NOVATECH
- 2016.8.21-26(仁川/韓国)12th International Conference on Hydroinformatics
- 2016.8.29-31(コロンボ/スリランカ) 20th Congress of IAHR Asia Pacific Division
- 2016.9.12-14(ニューデリー/インド) 19th International Riversymposium
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Symposium on River Sedimentation

書籍等の紹介 *Publications*

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)

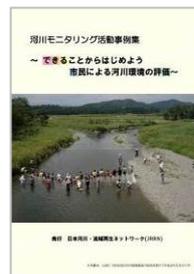
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>
JRRN事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

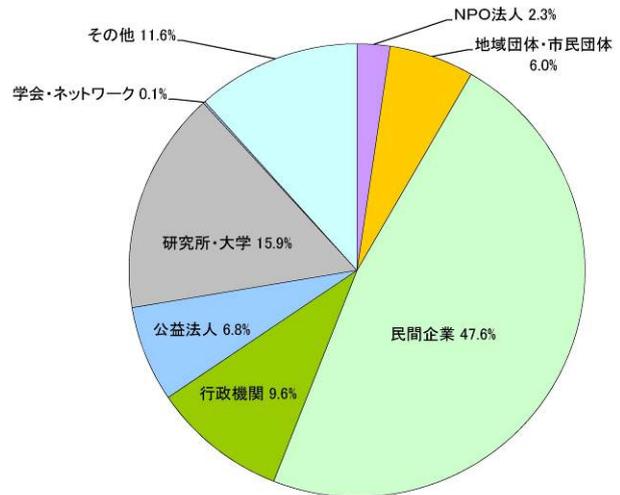
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2016年5月31日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：735名、団体会員数：60団体)

※5月の新規入会数：個人会員1、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

